

月報 書生閑話

monthly newsletter shosei kanwa 第三号 本郷版 2017.09

毎日が夏休みだったら
いいのになあ…



みなさま、夏休みはありましたか？

一般的に、大学生・大学院生に決まった夏休みはあつてないようなもの。高校までならば終業式と始業式とがあり、夏休みという期間がしっかり決まっていたわけですが、研究者の卵たる大学生・大学院生には休みとそれ以外の日の区別があまりなく、お盆でも東京で研究を地道に続けたり、学会に参加するために日本中を飛び回ったりしております。現在本郷に住んでいる書生各位も、修士論文や学会発表を控えている学生がほとんどで、夏休みでも研究に邁進している姿が見て取れました。どうも、書生にとっては「夏休みのありがたみ」があまり感じられないのです。

もつとも裏を返せば、学生というのは（成果を出しさえすれば）自分で自由に時間を決めて使えるわけで、贅沢な身分であるわけです。いわば「毎日が夏休み」。離島に遊びに行ったり、実家に帰省したり、夏休みらしい生活を過ごしていた書生も多く、みんながどんどん黒くなっていくことに夏を感じていました。

書生がいる夜には、屋上でぼんやり集まってお酒を飲んだり星を見たり。研究、仕事、夏休み、いいバランスで過ごしていきたいものです。③

本郷地域のまちづくりを進めるNPO法人街ing本郷には、書生生活というユニークな制度があります。

<http://shosei.tokyo>

本郷の街は書生生活を応援しています。一緒に書生を応援してくださる大家さん・不動産屋さんなどを大募集。ご連絡は下記よりどうぞ。

mating-hongo@nifty.com

書生のまち活動日誌

「スポーツを通じて人々をつなぐ

初心者向け卓球教室を開催」

七月三〇日、「夏休みセミナー」の一環として、本郷小学校で初心者向け卓球教室を開催しました。東京大学運動会卓球部OBの三人が講師を務め、参加者が卓球を基礎から学ぶという企画です。小学生を中心に募集しましたが、多世代交流の場にするため一般の方からも参加を募りました。来て下さったのは小学生九人、大学院生一人、社会人三人の計十三人。私も指導に加わり、皆で卓球の練習を行いました。

相手が小学生だと、教えるのは簡単ではありません。ボールが上手く当たらなかったり、試合に負けて泣き出しそうになったり。初心者指導に習熟している卓球部OBですが、小学生に教える際は苦労していました。しかし大学院生・社会人の方々による手助けもあり、最後は皆さんに卓球教室を楽しんでもらえたようです。終了後のアンケートでは、「とても楽しかった。」「次もぜひ参加したい。」「声をいただき、嬉しさを涙ぐみそうになりました。」

多くの方々に支えられ、第一回「卓球教室」は無事に終了しました。協力して下さいました皆様に感謝すると同時に、第二回がより良いものになるよう工夫を重ねていきたいと考えています。⑥



1: 卓球部OBによる基本打法解説。
2: グループに分かれて試合を行う。

書生コラム

明治の墮落、下宿屋。(下)

前回から、明治の下宿屋の学生が非常に墮落していた、という話を見て来ました。実際の明治の学生はどのような生活をおこなったのでしょうか。引き続き、明治時代の下宿の学生・書生に対する記述を見てみましょう。

「下宿屋にあるの書生は、万事自由勝なるの趣きあり、下宿の書生は十中の九まで毎朝其室内の掃除を自らせざるなり、ランプの掃除もせざるなり、(中略)トランプを闘はずなり、碁を打つなり、将棋をさすなり、買食いをなすなり、此買食いは最初焼芋より進んで煎餅となり、蕎麦となり、遂に天麩羅に進み牛肉に進むなり、彼等の錢あるや先づ肉舗に上つて牛飲するなり、馬食するなり……」

(明治二十六年『東京修学案内』)

いやはや、けちよんけちよんに書かれていますね。面白いのは外の店での「買い食い」についての記述で、牛肉が当時新しかった高級品として描かれています。金に余裕ができた次第、牛肉を食べに行っている当時の学生を想像すると、今でいう牛丼チェーンとは随分様相が、

「元来下宿屋なるものは、学生をして太平楽を歌わしむるに適し、六畳の一間は、その別天地として、俚謡を怒鳴り、昼寝をなし、夜深しをなし、朝寝をする」

(明治三十五年『東京苦学遊学手続』)

うむなるほど「六畳一間の別天地」。歌って寝て飲んで減茶苦茶をやっていたようですが、あれ、今の我々と全く同じではないですか……。時代の流れは変われど、学生気質というのはいつも変わらないものですね。あつぱれ。いつも変わらないものようですね。それにしてもこういう記述を見ている限り、明治の学生がいつ勉強をしていたのかさっぱりわかりません(笑)。我々もほどほどにせねば。③

書生のイキツケ

「ちゃんこ浅瀬川」

今月は、本郷の地で四十年以上の歴史をもつ、ちゃんこ浅瀬川を紹介する。東大赤門前の路地に入つてすぐ、赤提灯が目印だ。

六十年代に活躍した元大相撲力士である浅瀬川が引退後に開いたこのお店は、一階がカウンター席とテーブル席、二階がお座敷になっている。ちゃんこ鍋コース(二七〇〇円)を注文すると、突き出し、さつま揚げ、ちゃんこ鍋、しめの雑炊が提供される。黄金色の鶏がらスープで、せせりとたっぷりの野菜を煮込む「そっぷ炊き」がこのお店のちゃんこ。二本足で立ち手を地面につかない鶏は、相撲界では縁起が良いとされるらしい。そのような豆知識も、お店の方がテーブルでちゃんこを作りつつ楽しげに話

のぞきみ・書生生活

FILE 3: わたしの四畳半



してくれる。

夜はちゃんこ鍋で有名な浅瀬川だが、昼はお弁当販売を行っている(火曜日・金曜日)。作りたてのお弁当を三〇〇円〜五〇〇円(小〜大)で食べられるため、筆者は頻繁に通っている。夜も昼も、学生の懐にやさしい価格で、お腹いっぱいにしてくれる名店だ。④



店舗情報 ちゃんこ浅瀬川

■住所: 文京区本郷 5-26
■営業時間: 昼: 火~金 11:30-14:00(土日祝は休み) 夜: 月~金 17:00-23:00(22:30LO) 土 17:00-22:00(21:30LO)
■休日: 日祝休み